

人は人を浴びて人に育つ

～ふるさと形原を愛する形中生～



市長さんと蒲郡の未来！

～形中3年社会科授業『形原の未来は形中生が創ります』～

未来の蒲郡をどんな町にしたいのか、自身のビジョンを熱く語る鈴木寿明市長



7/1(金)、蒲郡市長の鈴木寿明氏をお招きし、3年生対象に『蒲郡の未来をともに考えよう』という講演をしていただきました。本校は、ふるさとを愛する生徒を育てるために、さまざまな取り組みをしています。今回のねらいは、蒲郡の未来像について市長さんから直接お話を聞き、社会の授業で「まちづくり」を自分ごととして考えるようになることです。

市民憲章3つ誓いをもとに「まちづくり」をしていること、蒲郡を元気にするためにシティーセールスを展開していること、地球環境や労働環境に持続可能性を持たせるサーキュラーエコノミーをどの市より早く宣言したことなど、汗を流しながら熱く語られました。

それに対して生徒からは、「住み良い町にするためにどんなことをしているのか」、「あじさいの里など、観光地の渋滞について対策はあるのか」、「蒲郡はSDGsについてどんな取り組みをしているのか」、「蒲郡のために私たち中学生に何かできることはあるか」などの質問が出されました。それらの質問について市長さんは、一つ一つ丁寧に答えてくださいました。

市長さんから「蒲郡をよりよくするためには、みんなで考えることが大切です。よい意見やアイデアがあったら聞かせてください。」という宿題をいただきました。今後の社会の授業で、よりよい蒲郡市や形原町をつくるためにどうしたらいいのか、みんなで考え市長さんに届けましょう。お忙しい中、講演して下さった市長さん、ありがとうございました。

生徒の側まで行き、質問に耳を傾け、丁寧に語りかけるように返答される姿が印象的でした。



本校での市長講話は、東愛知新聞7月3日号でも紹介されました。

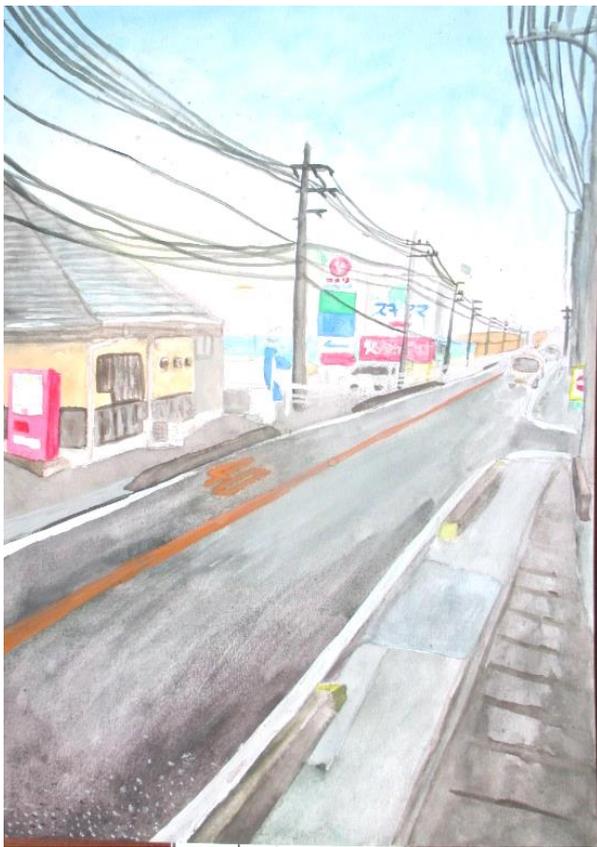
形原の美を感嘆 写生会最優秀賞



『どあを開けたしゅんかん』 1年 A.Y



『しゅうごう場所』 2年 H.K



『帰り道』 3の1 A.Y

5/19におこなわれた写生会の入賞者が決まりました。最優秀賞の3作品を紹介します。

1年 A.Yさんの作品は、電柱やガードレールの長く伸びた影から、朝、玄関を開けて、最初に目にする風景を描いたと思われます。やわらかくカーブする道、雑草の爽やかな緑、遠くの山まで展望できる空間の広がりなど、この風景を見ながらどんな気持ちで毎日登校しているのでしょうか。

2年 H.Kさんの作品は、形原駅から見える、歩道橋やお店を描いています。題名から想像すると、この場所で友達と待ち合わせて、一緒に登校するのでしょうか。水の量を多めにして、淡く優しい色合いで仕上げています。友達を待っている時の気持ちが、うまく絵に現れていると思います。

3年 A.Yさんの作品は、1点透視図法で、学校の東にある県道の長さや奥行きを上手に表現しています。題名から想像すると、帰り道に学校の方を振り返った風景を描いたのでしょうか。色どりの店の看板から、その日は学校で何か楽しいことがあったのではないのでしょうか。

今年の最優秀賞は、3作品とも登下校時の何気ない風景を切り取ったものでした。海や山、赤い電車など、形原らしい風景もいいですが、生徒のみなさんの日々の息づかいを感じる風景もまたいいですね。7/14から全校生徒の作品を教室・廊下に展示します。保護者のみなさま、夏休みの懇談会の折に、是非ご覧ください。